

第3回 まち・ひと・しごと創生戦略会議 議事要旨

日時	平成27年11月17日(火) 10時00分～12時00分	
場所	小牧市役所 東庁舎5階 大会議室	
出席者	<p>【本部長】</p> <p>山下 史守朗 小牧市長</p> <p>【委員】</p> <p>安藤 仁 名古屋鉄道(株) グループ統括本部 事業企画部 企画担当部長</p> <p>若林 宏保 (株)電通 電通 abic プロジェクトリーダー</p> <p>桑原 かおり (株)ゲイン メナージュケリー編集長</p> <p>田中 理絵 ママラボ代表</p> <p>坪井 俊和 大城児童館 館長</p> <p>土方 裕美 アレルギーっ子のつどい クリスマスローズ代表</p> <p>小塚 智也 こども未来部長</p> <p>【コーディネータ】</p> <p>石田 洋一 (株)電通コンサルティング</p> <p>【事務局】</p> <p>伊木 利彦 市長公室長</p> <p>舟橋 逸喜 市長公室次長</p> <p>宇野 嘉高 市長公室 秘書政策課長</p> <p>舟橋 朋昭 市長公室 秘書政策課係長</p>	
傍聴者	15 名	
配布資料	資料1	委員名簿、配席表
	資料2	小牧市人口ビジョン案概要
	資料3	小牧市人口ビジョン案
	資料4	人口ビジョンおよびこれまでの議論を踏まえた総合戦略策定について
	資料5	小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略 骨子(案)概要
	資料6	小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略 骨子(案)

■主な内容

1. 開会

(1) 市長あいさつ

第2回戦略会議において、生活者要件の整理や、小牧市の強み・弱みの整理を行い、人口の将来展望を提示させていただいた。そして、みなさまより女性が活躍できる場について考える必要性や、自分のまちを外から評価してもらうことの重要性などのご意見をいただいた。

本日は、これまでの議論を踏まえ、人口ビジョン案や総合戦略骨子案をご用意したので、専

門的な立場、経験から活発な議論をいただきたい。

2. 議題

(1) 小牧市人口ビジョン案について

【安藤委員】

- ・人口ビジョン案は、よくまとまっていると思う。
- ・転出入者のアンケートについて、特に3月にデータをとると、子のいる世帯でもう少し違う傾向が出たかもしれない。
- ・小牧市は住む街としては力があるので、それを伝えていくことが重要ではないか。

【山下本部長】

- ・転出入者については急ぎよ1カ月間の実施のため、今後も引き続き見ていく必要がある。若い女性の「結婚、出産」による転出が多いのが気になる。
- ・昼間人口が増えるのは、尾張地域では本市だけ。名古屋のベッドタウンというイメージが圧倒的に多く、産業都市というイメージを持たれていない。小牧市の強みと弱みが伝わり切れていない。弱みをどう解決していくかを議論いただきたい。

(2) 小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案について

【安藤委員】

- ・持続可能な交通機関、公共交通をどう維持するかは、コストに直結する話。コストをかけないと、満足されるものはできないだろう。
- ・コンパクトシティにいちばん重要なのは医療機関。これをどう位置づけるかが、成功のカギ。医療機関を中心に考えていった方がいい。また、機能しているのは、駅周辺の公共が運営する子育て支援施設である。駅周辺の家賃は高いため、収益性を考えると民間が行うのは難しい。

【坪井委員】

- ・小牧市は安心な街であることをアピールするには、防犯・防災は大事なことである。まち全体でやれる施策があると、イメージも向上するのではないか。

【土方委員】

- ・小牧市は子育て施設は充実しているが、知らない人が多いため、外に向けて発信していくことが必要。特に子どもを持つ母親は敏感に口コミをキャッチされるため、情報を外に届けることは大事だと思う。

【桑原委員】

- ・小牧市にはいい施設がいっぱいあるが、利用者は、「小牧市」というのを意識して利用しているのではなく、「いい施設」だから利用している。人気の施設からの動線を示して、来訪者をめぐらせて、まち全体をアピールしていった方がいい。

【若林委員】

- ・シンボリックな場所となるとハードで考えがちだが、ライフスタイルのニーズに応えるかたち

で自然発生的にシンボリックな場所ができていくのではないか。

【山下本部長】

- ・いちばんのポイントは、人口減少をどのように克服していくんだという視点が重要。20-40代が転出超過、人口が伸びている街は、子育て世代が伸びている。若い世代が住みやすい街になることが大事。

【土方委員】

- ・働きたいと思っているが、子どもを預ける環境が整っていないため、働けないママは多い。

【若林委員】

- ・子育てしながら起業したいという女性が増えており、その想いに応えるための起業サポートがあるといい。

【土方委員】

- ・最初から賃料が必要なところであるとハードルが高いので、起業とまではいかないまでも、イベント等で出店でき、いろんな方が集える場所があるといい。先日の地域のマーケットにおいて、自身の手作り商品などで出店しているママは輝いていた。そういったママの眠っている才能が開花できるような場が必要。子育てで自信をなくしている状況に対して、自分の能力を認めてくれる機会があれば自信が持て、子育ても前向きになるのではないか。また、それにより収入が増えれば、2人目、3人目も産もうという気持ちになるかもしれない。

【坪井委員】

- ・ワンストップコンシェルジュの需要がある。そのような機能を備えた、えほん図書館と一体となる児童館があるといい。

【小塚委員】

- ・子育てサービスが多様化しているため、利用者から見ると複雑化している。利用者に応じたサポートを提供するコンシェルジュ機能は今後、必要になってくる。

【若林委員】

- ・えほん図書館はよい施設。ブランド戦略の中で、絵本で子どものイマジネーションを育てる取り組みを行うと、小牧らしい施策となるのではないか。

【田中委員】

- ・中小企業で主婦インターンシップを取り入れているところがある。子どもが小さいころでも、母親が短時間でも働ける機会があるといい。今後は、女性のコミュニケーションスキルが役立つ仕事が増えてくるだろう。
- ・小牧育児白書など、ママ達の声を数値化するなど、デジタルを活用して、主婦をモニターにするなど活用していく方法もあるのではないか。
- ・「こまき山」の公式グッズを市民で作り、メイドイン小牧というブランディングを売りにするのもいいのではないか。

【坪井委員】

- ・就労支援として研修が重要であるが、小牧市には、ポリテクセンターという素晴らしいものが

ある。これと主婦をうまくつなげることができればいい。

【桑原委員】

- ・ママはコミュニテイを求めているので、そのつながりをうまく活用していくことがPRには効果的なのではないか。
- ・子どもがいない方に「子育てにいいまち」という魅力を伝えることは難しいことであるが、結婚前の方にPRしていくのが必要。

【坪井委員】

- ・児童館にいる者としては、ブランド戦略は効果が出ていると実感している。「こまきやま」により浸透効果があり、わかりやすいと思う。

【山下本部長】

- ・ブランド戦略は始めたばかりで、すぐに効果があるわけではないと考えている。イメージの向上を地道に図っていくということが重要。
- ・施設の充実度は高いので、施設の利用シーンをわかりやすく発信していくとよいのでは、という意見をタウンミーティングの際に聞いた。

【桑原委員】

- ・ブランド戦略は、シーンごとにビジュアルで示した方がわかりやすい。ブランドロゴマークを見ただけでもやさしいイメージがあるので、これをもっとシンボリックにアピールしていくとよいのではないか。

【若林委員】

- ・今の段階ですべての人をターゲットとするのは難しい。まずは深く関わっている人に口コミで広めてもらって、それが波及し、関心の低い人にも伝わるといい。

【田中委員】

- ・新たなハードを作らなくても、いい時間のすごし方を演出し、いろいろなところをまわり家族で1日過ごせる「1日まるごと小牧」みたいなものがあると、行ってみたいと思われるかもしれない。
- ・家の購入に対しての金銭的な助成ではなく、1年間住んでもらうモニター募集し、その人に情報を発信してもらうといったPR施策もあるのではないか。
- ・保育園は他と差がでにくい。習い事の送迎が充実、英語教育が充実など小学生を対象とした施策を実施すると話題性があるのではないか。「子どもが小学生になったら、小牧市がいいかも！」と思われる施策があるとわかりやすい。

【山下本部長】

- ・夢・チャレンジ事業として児童館で英語を実施しているが、今後は、学校とどのように連携し付加価値を高めていくのかを研究していきたい。

3. 【閉会】